



## Counseling practice for altruistic surrogacy in NSW of Australia.

代理出産のカウンセラーとして

Interviewee

Miranda Montrone

**Q.** バックグラウンドについて教えてください。

代理出産に関するカウンセリングを専門にやっている。とくに代理出産の前に行われるカウンセリングに従事している。30年以上、不妊分野、donor-conception のカウンセリングに携わってきた。NSW では、90年代後半から IVF surrogacy が行われ、法律ができたのは、2010年だった。クリニックは代理出産をととても慎重に扱っている。ただ、NSW では、VIC ほどには法律は整備されていない。

代理出産について、200 から 250 ケースくらいのカounselingをこれまで担当してきた。法律ができてから、Counselingは必須になった。出産後に代理母とパートナーに対するCounselingも行う。長さは1時間くらいでそれほど長いものではないが、重要だ。代理母がどう感じているかを知るのには重要。親決定のプロセスにかかわるカウンセラーもいる。自分がかかわ

ったのは40 ケースほどで、全部合わせるとトータル300 ケースほどになるかもしれない。

**Q.** 利他的代理出産を成功裡に実施するためにはどのようなことが必要でしょうか。

互いをリスペクトすることが最も重要だ。そして、正直さ honesty、オープン openness、透明 transparency も大切。オーストラリアでは、利他的でなければならない。これは大事なこと。代理母の自律性や自由意志が尊重されなければならない。彼女の身体に関わることだからこれは最低ラインになる。

そして、もし子供に障害などの問題があったらどうするか？ などのことも事前に十分に話し合っておく。依頼者は代理母をどのくらいコントロールしたいと思っているのか？ などを知ることができる。代理母の子供にはどんな影響があるか？ も考える必要がある。代理母に出生前診断をうけてもらいたいのか？ 代理母が希望しないときはその意思を尊重する。

出生前スクリーニングを受けて、万が一、子供に問題があるとわかったら、中絶するのかもしれないのか。もちろん、実際にそういう事例は、多くはない。200例のうち、身体的な障害が見つかったのは、10例くらいだろう。代理母は、たいていの場合、依頼者の希望にしたがう。しかし、もし気



が変わったなら、それでもかまわない。代理母の気持ちが尊重される。

このことは、依頼者がお金を払うということと切り離して考えなければならない。代理出産では金銭的対価は発生しない。依頼者は、代理母に感謝する。そして尊敬する。代理母はそれで満足する。ここには、代理母と依頼者と子どもたちの交流写真もある。

もし代理母に対する尊敬が足りなければ、自分は前に進めないよう進言する。NSWの人たちは、国内で依頼できなければ海外に行く人も多い。しかしそれは、法律違反だ。NSWでは海外で商業的代理出産を依頼することは禁止されている。犯罪行為だ。

### Q 渡航する理由は何でしょうか？

一番大きな理由は国内で代理母を見つけられないことだろう。とはいえ、ものすごく難しいということはない。だから、たいいてい人は、代理母を見つけることができていると思う。どんな人が代理母になるのかについてのデータを持っていて、投稿準備中だ。28%が実の姉妹または義理の姉妹の関係、どちらかの両親、その他が20%。友達、親戚、友達の友達。

このような人に依頼できない人は海外に行くだろう。オンラインで見つける人もいるが、数は非常に少なく、5%未満だ。オンラインで知り合って、

代理母がやってもいいよとってくれた場合になる。

自分が知っている一つの例がある。代理母はシドニーではなく、他の州に住んでいた。彼女は、夫と子供たちと一緒にシドニーに遊びにきた。他の友人らと一緒にバーベキューをした。バーベキューを主催していた家族の女性が、子宮頸がんになって、まだ若かったが、子供がもてなくなった。それは非常に可哀想だという話になった。他の州から来た女性は、自分は前から代理母になりたかったと言った。それで、代理出産の話が進んだ。最終的に、代理母は子どもを産んだ。このケースのカウンセリングを自分は担当した。

### Q. どのような場合にプロセスに進むべきではないと進言しますか？

そういうケースはとても少ない。いままで10例にも満たないだろう。例えば、わたしに嘘をついていたことがわかったケースが複数。それから、代理母にお金を払おうとしていたケースが複数。代理母に対してよい感情を持っていなかったケースが複数。代理母の素行に問題があったケースもある。自分のことで精一杯な人は、代理母になるには適任ではない。その女性はいい人かもしれないが、代理母になるのはよい考えではない。



そして、メンタルヘルスの問題を抱えている女性もいた。しかし、多くはない。もしカウンセリングで問題が持ち上がってきたときは、それを解決できるよう努力する、またはその問題にうまく対処できるようアドバイスをする。

**Q. どのような人が代理母に適任でしょうか、とくに心理面で。**

ノーマルで、心理的に重大な問題を抱えていないこと。MMPI という尺度がある。これを使ってアセスメントする。日本にもあると思う。このテストで、重大な問題を抱えていないこと。自分をよく見せたいと思って回答を変えているケースも検出できる。とても高度で専門的なテストだ。

自尊心については低すぎなければそれでいい。多少低くても、平均の範囲内に収まっていれば問題ないと考えている。やはり代理母になろうとする人は、依頼者に比べれば教育も低く、よい仕事にもついていない傾向がある。その結果、代理母になろうとする人は自尊心がいくぶんか低いという傾向はある。依頼者に対する共感から、自分にできることとして妊娠を選択する。そのあと、子どもとも会える。オーストラリアで代理母になれば、依頼者が子どもを海外に連れて行ってしまい、その後、子どもに会えないということは起こらない。我々のスタンスは、誰

か代理母になりたい人がいるなら、きってもらって話をし、チェックしましょう、そして何も問題なければ、どうぞ、というもの。

**Q. 補償についてはどうでしょうか？**

利他的なので対価を支払うことは禁止されているが、例えば、NSW では、代理母が仕事を休んだ分の費用を支払うことができる。しかし VIC ではできない。そのように州によって細かな規定が違う部分がある。

**Q. 精子ドナーについてはどうでしょうか？ とのよう人が適任でしょうか。**

何度も提供ができる人。最近、精子ドナーを見つけるのが難しくなっている。なぜかというと、子供が将来コンタクトしてくるかもしれないということを恐れている。そういう話がたくさんメディアに流れている。それでも平静でいられる人。精子ドナーにも心理テストを受けてもらう。自分がしようとしていることをきちんと理解している人。既に自分の子供をもっている人が望ましい。それが一番。なぜなら、もし提供して、そのあと自分の子どもを持つことができなかつたら？ そしてその子どもは、自分の子どもではないと知ったら？ 寂しいと感じるだろうか。





**Q. 子どもによってドナーに関心を持ったたり持たなかったりするのなぜでしょう？**

それはその子どもによる。養子の場合を考えてみると、ある子どもはコンタクトを望まない。たとえ、生みの親にコンタクトができる状況でも。生みの親は自分のことを捨てた存在だし、育ててくれた親に対して申し訳ないと思うから。もちろん、それでも生みの親に会いたいという子どももいる。

**Q. 代理出産の感情的な側面について教えてください。**

今まで子どもを手元に置いておきたいという代理母に会ったことがない。頭ではわかっているけど、身体は妊娠しているから、出産直後はやはり喪失感はあるだろう。たとえ自分の子どもではなくとも、代理母はそれだけの長い間全身で関与していたので。子どもを渡したあとのコンタクトについてもカウンセリングで話しあう。

**Q. 利他的代理出産と商業的代理出産は心理面で違いがありますか？**

わからない。ここでは商業的代理出産はやっていないので。米国ではやっているが。他の国で、女性がきちんと尊敬をもって扱われているか。そうすべきだと思うが、実際そうされている

かどうか、わからない。オーストラリアで商業的代理出産をやろうとする人もいるが、自分はサポートしない。商業的代理出産をやりたい理由は、代理母が不足しているから。代理母を見つけられられないかもしれない、と思ってる。それで、お金を払えば、代理母になってくれる人を見つけられるのではないかと。私が知っている代理母はみな、お金が欲しいわけではないと話していた。それはギフトだと。子どもを売るとはしたくない。売春とも違う。身体を売っているわけではない。それはギフトなのだ。

**Q. オンラインで代理母を見つけるのと、友人や親族から代理母を見つけるのではどのように違いますか？**

オンラインで見つけてもかまわないと思う。しかし、きちんと人間関係をつくらなければならない。すべては関係性にかかっている。長い期間に及ぶ関係性になるから。代理母は、自分が良いことをしたということを知りたい。代理母やドナーは、子どもがどんな風か見たい。

そういえば、こんな映画があった。名前は忘れたが、韓国の女性で、養子でアメリカにやってきた。あるとき、フェイスブックであなたにそっくりな人がいる、と教えられた。彼女は双子だった。もうひとは、パリで育てられ、もうひとはカリフォルニアで育



てられた。彼女が製作した映画の中で再会を果たした。韓国にも行って、生みの親にも対面した。人が欲しいのは関係性だと思う。そして、自分についてのストーリーを理解する必要がある。商業的代理出産それ自体が悪いわけではないと思う。大事なのは代理母を尊敬をもって扱うこと。代理出産をまるでルーティンのように扱っているところもある。そういう風にすべきではない。そういう風になると、子どもを産んだあと、代理母は子どもに関心がなくなることもあるだろう。9ヶ月の間、関わったのに、尊敬がない扱いをするのはよくない。子どもを見れないことすらあると聞いている。麻酔を与えて、その間に子どもを連れ去る。そういうやり方は好きではない。

**Q. 一部の人は、海外代理出産を減らすために国内の代理出産を商業モデルに近づけるべきだという人もいます。**

それは法律違反だから、そうしたいなら、まず法律を改正すべきだと思う。しかし自分はそれがいいとは思わない。海外代理出産はよくない。もし海外で依頼した場合、海外の出生証明書を翻訳したり、報告書が必要だったり、いろいろ手続きが面倒になる。そして、海外では、例えばインドのような国では代理母になることは恥なので家族も言っていない人すらいる。ウクライナは、カトリックの国だから、代

理出産は宗教の教えに反することだ。だから家族は知らない可能性がある。ギリシアにも、卵子提供や代理出産が多いと聞いている。メキシコも、カトリックの国だ。やっぱり、家族にいつてあるかどうか、疑わしい。そういう点でも難しさがある。それでも代理母のことはきちんと扱わなければならない。家族にもいえず、お金のためにやっている、そのことは理解できる。でも、代理母は子どもと会えるようにすべきだし、子どもを育てている家族とも交流できるようにすることが必要だ。

先日、ジャカルタでプレゼンをした。そのときに、代理出産についていろいろ質問された。代理出産をやりたいらしい。私が言ったのは、やるのはいいけど、全体を見て欲しいと。家族が互いにうまくいつているか、相手を本当の意味で助けたいと思っているか。友人なら友人を心の底から助けたいと思っているか。利他的でなければならないし、適切に扱われなければならない、と助言した。

**Q. 代理母と依頼者の間に葛藤はありますか？**

ときどき、そういうことはある。250件に5例くらい？ それほど多くはないけど、非常に感情的にもつれるケースはたしかに存在する。依頼者は、子どもが産めなかった女性。または、流産



した。または、子宮を摘出した。だからその女性の感情的な痛みは相当なものがある。だから感情的な面がとても強く出ることがある。一方で代理母はそういう問題が全なかった女性。だから、問題ない。心配がないといえる。だから、代理出産が進行する間、依頼者の女性は心理カウンセリングが必要な場合がある。代理母が子供をわたさなかったら、など、恐れや心配に対処しなければならない。そしてそれをコントロールしなければならない。こんなこともあった。42週にまで出産が遅れた代理母がいた。依頼者は帝王切開を希望したが、代理母はあまり心配しなかったもので、そのままがいいと言った。病院は、代理母のいうことを尊重した。代理母の身体なので、代理母の考えが優先される。

な悲嘆や痛みを経験していないので付き合いやすいということがある。だからゲイカップルの依頼者は、違うともいえる。とても準備が整っているといえる。

#### **Q. ゲイカップルの依頼者で異性カップルと異なる点がありますか？**

ゲイカップルでも、違いはないと思う。男性は一般に女性の体にことはわからない。それは、女性と結婚した男性でも同じこと。妊娠の長さすらも知らないかもしれない。ちゃんと理解しているとは思わない。しかし、代理出産を依頼しようとするゲイカップルの場合はそうではない。とてもよく勉強している。代理母になる女性にとってはゲイカップルの方が好まれるばあいもある。それは、依頼者の女性のように





Miranda Montrone [Link](#)

オーストラリアニューサウスウェールズ州を拠点とする心理学者、家族療法士、不妊カウンセラー

不妊症と生殖補助医療における 30 年以上の経験を持つ。現在は代理出産と配偶子ドナーに関するカウンセリングを専門としている。

• The Australia and New Zealand Infertility Counsellors' Association (ANZICA [Link](#))

論文:

Montrone M, Sherman KA, Avery J, Rodino IS. A comparison of sociodemographic and psychological characteristics among intended parents, surrogates, and partners involved in Australian altruistic surrogacy arrangements. Fertil Steril. 2020 Mar;113(3):642-652.